

応神天皇皇后 仲姫命 仲津山陵駐車場整備工事に伴う立会調査

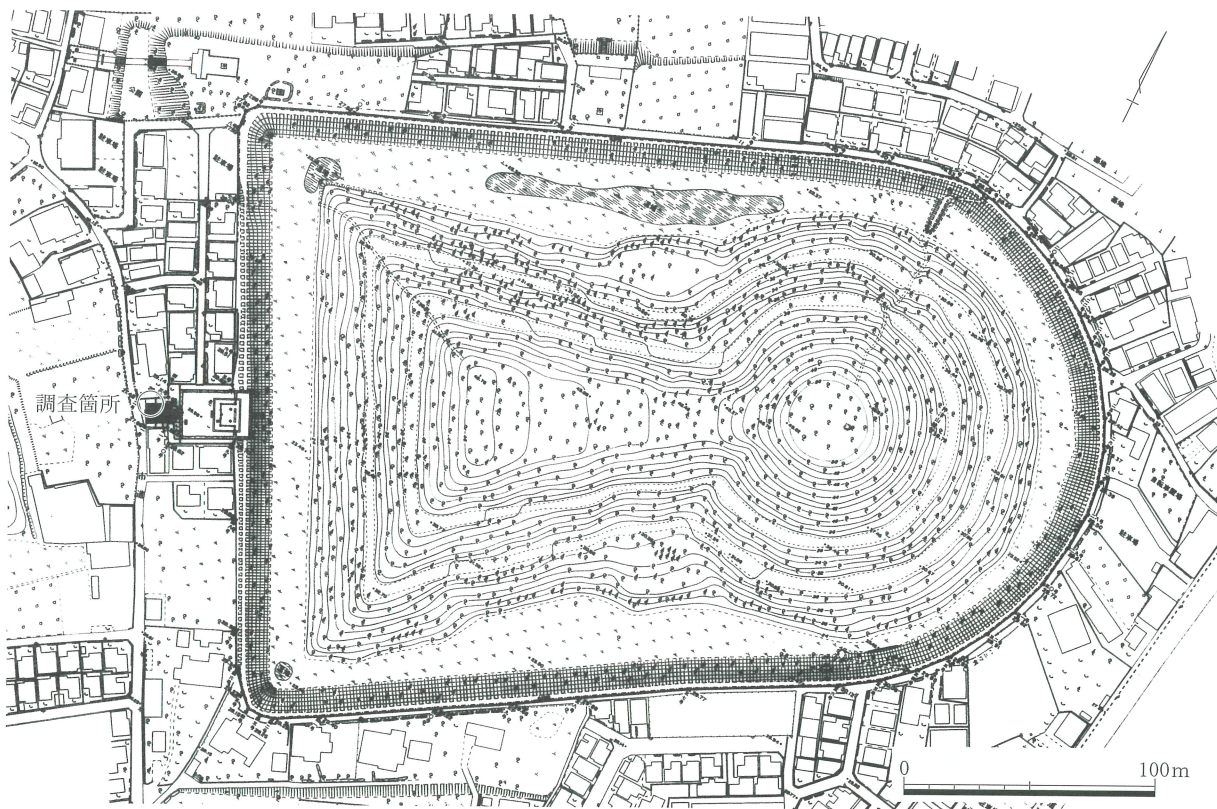
仲姫命仲津山陵は大阪府藤井寺市沢田4丁目に所在する墳長約290mの前方後円墳で、遺跡としての名称は仲津山古墳である。

当陵の周囲は道路が狭く、当庁の敷地内にも駐車するスペースがなかったため、日常の管理業務にも不便をきたしていた。そのため、参道脇の植栽を一部除去するなどしてアスファルト敷きの駐車場と車止めをあらたに整備することとなった。それに伴い、掘削時に当部職員が立ち会うこととした。調査期間は令和3年1月25～29日の5日間であった⁽¹⁾。

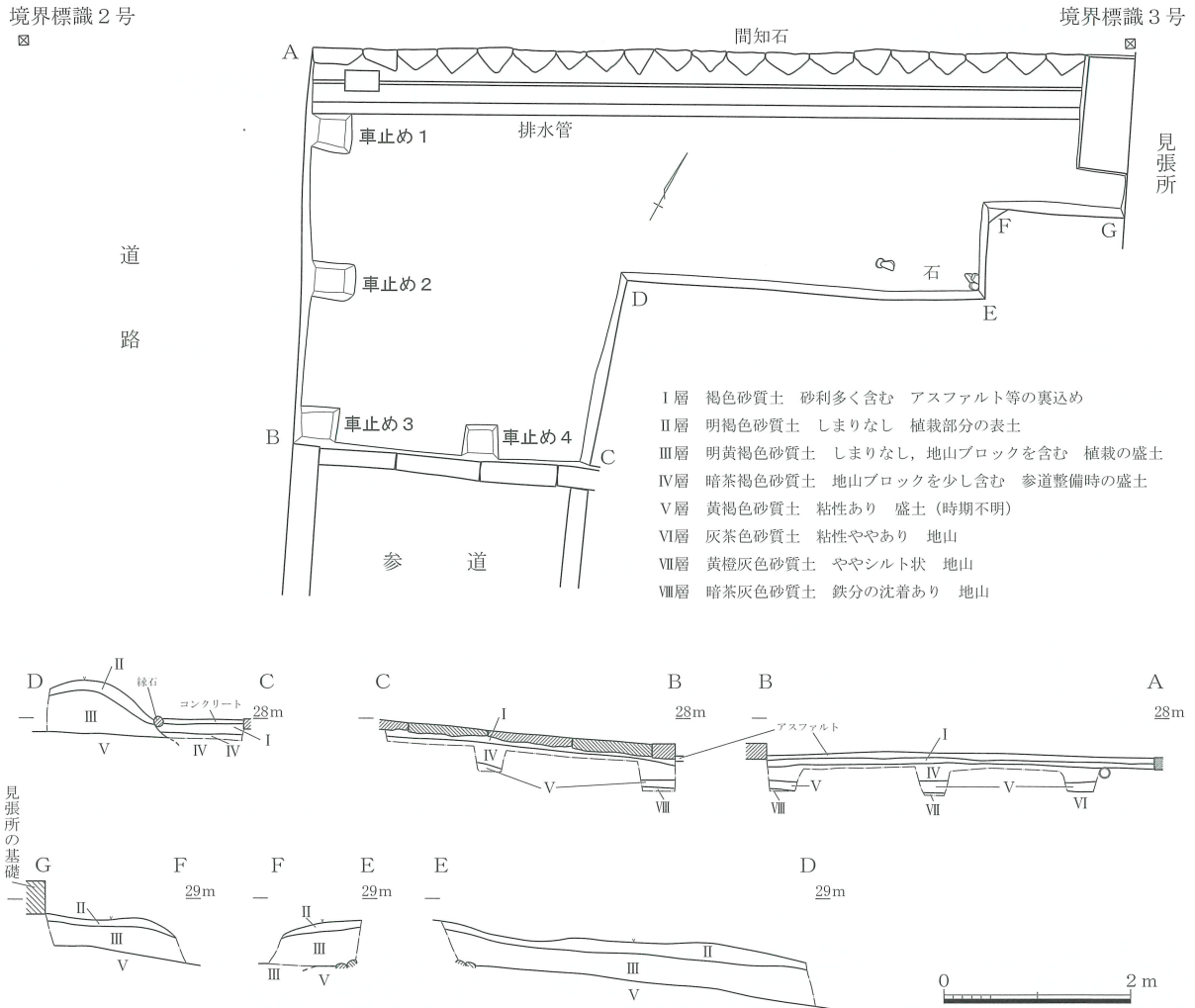
調査所見 調査した箇所は当陵西側の前方部前面の外堤上にもうけられた拝所へと向かう参道の北側部分である(第55図)。古墳との関係でいうと、ちょうど外堤の外側斜面にあたる位置を含んでおり、現地地形も東から西へとくだる緩斜面となっている。

今回の工事では、当該箇所において最大で長さ約8.8m、幅約4.4mの不定形な掘削をおこなった。基本的に掘削深度は20cm程度であったが、4箇所にもうけられた車止めでは40cm程度の掘削となった。また、参道の脇に位置する植栽部分は厚めの盛土がほどこされているため、地表面からの掘削深度は50cm前後になっている(第56図、図版47-1)。

調査箇所で確認された土層は、基本的に近代以降に参道が整備された際の盛土などのあたらしいもの(I～IV層)であった。これに含まれないV層は時期が不明である。この層の直上に葺石としてもおかしくないような石材が数個確認できることから、古墳時代の盛土である可能性も考えられるが断定はできない。なお、現状で確認できるV層の傾斜は、これまで当陵周辺の調査で確認されている外堤の外側斜面の傾斜状況より



第55図 仲津山陵 調査箇所位置図 (1/3,000)



第56図 仲津山陵 平面図・断面図 (1/80)

も勾配がゆるいものであり、周辺の調査から推定される外堤外側の基底ラインよりも外側までのびることから、古墳築造時の面である可能性は低そうである(図版48-1)。

また、調査箇所のうち、車止めをもうけるために深く掘削した4箇所の中の3箇所(車止め1~3)では、Ⅴ層の下部に地山(Ⅵ~Ⅷ層)を確認した。車止めの間隔は1.2mほどであったが、確認された土質はそれぞれ異なるものであり、調査地周辺では地山の状況が一定ではないことがうかがえる(図版47-2~4)。

なお、今回の調査において出土遺物は確認されなかった。

これらのことから工事は問題なく施工できるものと判断した(図版48-2)。 (加藤一郎)

註

(1) 調査にあたっては、藤井寺市教育委員会の泉真奈氏、上田睦氏、河合咲耶氏、新開義夫氏、福田英人氏、山田幸弘氏より現地でご指導・ご教示を賜るとともに、周辺において実施された調査のデータをご提供いただいた。ここに記して謝意を表したい。



1 調査箇所全景(南西から)



2 車止め1(東から)



3 車止め2(西から)



4 車止め3(北から)



5 車止め4(北西から)



1 DE間の断面(西から)



2 竣工後全景(南西から)